

教育目標		「元気で遊ぶ、心あたたかい子どもの育成」 めざす子ども像 ○心も体も元気な子 ○互いを認め合い思いやる子 ○自分をいきいきと表現する子 ○仲間と共に育つ子					
重点目標		職員が協力して教育環境を整えと共に、保護者、地域をまきこんだ環境作りを行う。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題 ○成果 ○課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	(2) 基礎基本の徹底と、保育指導	・子どもの生活環境、発達観を捉えた教育の推進を行う。 ・毎月1回以上は伊丹特別支援学校の学校保護者コンサートを利用し、子どもの力を伸ばしていくためのクラス経営方法や、個別な支援方法の指導を受ける。	・講師招聘や学校園コンサルテーションを通して、学び合いの確保や保育指導力の向上を図る。 ・子どもが、自分の思いを自分なりの表現の仕方、友達や教師に示そうとする。 ・子どもの実態や課題について教師間で共通理解し、連携、統一した支援を行うことで、課題を成果につなげていく。 ・クラスだよりを、毎月1回以上は発行する。	A	○大阪府人権教育研究協議会の人権ポスターを扱い、子どもが自分の気持ちを選んだり、使ったり話したり等と、伝える手段が増えるきっかけとなった。 ○学級懇談会で園での取り組みを保護者に伝えることで、子どもの実態と課題の共有ができた。家庭でも取り組んだりすることにもつながった。 ・園での取り組みを伝えているが、家庭でのかかわりには反映されにくい。 ・子ども自身の伝える力の成長を感じてもらいにくいのがアンケートを通じた。保護者への伝え方を考えていく必要がある。	・学級懇談会や、クラスだよりでも引き継ぎ、クラスの様子課題を全体に分かりやすく伝えていく。 ・子どもの成長、変化などを保護者に直接こまめに伝え、保護者と子どもの成長を引き続き共有することができるようにする。	
	豊かな心・健やかな体 健やかな体づくりの推進	・自分の健康に興味関心を持ち、感染症及び疾病の予防に努める。	・家庭でも自らすすんで取り組むことができるように「けんきカレンダー」をほけんの話と連携して作成し、定期的実施していく。 ・ほけん日よりや保健通信を通して、季節に応じた健康情報を始め、園内での子どもの様子や流行が予想される感染症等の情報をその都度発信していく。	A	○欠席状況や症状を細かく提示することで、保護者も子どもも予防に努める姿につながっている。 ○アンケート項目9 A、B合わせて97%となっている。 ○長期休暇に入る前に、子どもへの指導があることで、子ども自身の理解につながっている。	・基本的な生活習慣の確立が生活の基礎となるため、今後は生活習慣についての取り組みと、保護者啓発・発信を行っていく。 ・引き続き、子どもの実態や時期に合わせた発信を、ほけん日よりやHPを通して行っていく。	
	開かれ信頼される学校園 保護者・地域との連携	・教育への理解に繋がるよう保護者、地域と連携する。	・地区社協行事には、毎回、職員2名以上が参加する。 ・園内行事に地域の方に来ていただく。年5回 ・園行事にケアセンターの方も招待し、園児と交流しつなげる。 ・参観日にあわせ、子どもの実態や保護者に大切にしたいこと、悩みにあった、講演会を行う。 ・おぎのっ子タイムを毎月1回15:00まで取り入れる。 ・HPを通して、発信していく。	・地域と人とのかかわりが深まり地域、園児、幼稚園の3者が一緒に地域の子として子どもの成長を見守る。 ・常に、園内の様子を、保護者、地域に公開し、ねらい、内容、子ども一人一人の成長を伝えることで、理解を得る。 ・おぎのっ子タイムを毎月1回15:00まで取り入れる。 ・HPを通して、発信していく。	A	○職員が、地域行事に、園長以外に1名以上、必ず参加することが出来た。 ○地域の方が、5回園内の行事に参加していただくことが出来た。 ○おぎのっ子タイムは、毎回ほぼ全員の参加になった。保護者からも今後も続けて欲しいという意見もある。 ○講演会を参観日とあわせて行うことで、参加率が高かった。子どもの実態や時期にあった内容を取り入れたことで、保護者の気付きにもつながり、前向きな感想が聞かれた。 ・幼稚園ウィークや自由参観の保護者の参加率が低い。 ・園から情報をHPや園だよりを通して発信しているが、保護者には見とれていないことが分かった。	・おぎのっ子タイムの時期、回数については、保護者の意見も取り入れていくように努める。しかし、保育後の職員会議、出張、保育の準備などに影響が出ないようにしていく。 ・講演会を通して話をしてもらうことで、保護者の理解に変化が見られた。引き続き行っていきたい。 ・HPの更新を全職員で行い、積極的に情報を発信していく。
その他 安全管理	・生活の場として、安全で過ごしやすいように環境を整える。	・安全管理の項目を年間計画に取り入れ、園よりにも記載し、職員の意識向上に努め、月一回の安全点検の完全実施を行う。 ・様々な場面を想定した避難訓練を月1回行い、訓練をもとに安全について子どもと共に考えられるような機会を設ける。 ・園庭清掃を、子どもと共に戸外遊び後に行う。	・園庭、保育室内外、物品の点検を毎月1回担任が行うと共に、他の職員も目でも点検する。常に安全点検の視点から遊具、用具、室内外の様子を見ることが習慣化する。 ・避難訓練を確実にに行い、それぞれの災害に対して職員が確実に行動できるようにする。 ・環境を整え、子どもがすすんで見つけたごみをごみ箱に捨てることのできるようにする。 また、危険箇所を見つけた人(保護者、園児、地域)ができる体制にする。	B	○避難訓練や講習を子ども達が学ぶ機会になったり、職員も災害を想定した動きを確認し、行動したりすることが出来た。 ○子どもがすすんで見つけたごみをごみ箱に捨てる姿につながっている。 ・遊びについての安全指導(遊具の使い方、危険意識、遊具の点検)は、子どもの遊ぶ姿にあわせ伝える必要がある。 ・月1回の安全点検が習慣化にはつながらなかった。	・安全点検の時間を設け、習慣化するよう職員間で意識し声を掛け合う。 ・子どもの遊ぶ姿を職員が常に把握し、遊び方に応じて、安全な遊具の使い方を知らせる。	

学校関係者評価総括  
 ・保護者への啓発は、見やすく、分かりやすい方法を用いて発信していく。  
 ・アンケートの回収率は、100%は良かった。  
 ・人権ポスターを用いた保育は、今後も子どもの姿に合わせて工夫して行って欲しい。  
 ・子どもの成長を見守ってきた中で、2年間の子ども達の育ちを感じる事ができた。

次年度に向けた重点的な改善点  
 ・保護者支援  
 ・情報の積極的な発信